

漫画研究への扉

日下, 翠
九州大学大学院比較社会文化研究院

南雲, 大悟
國學院大学・二松学舎大学・日本大学非常勤講師

アンカー, ジラジランチャイ
九州大学大学院比較社会文化学府博士課程

佐島, 顕子
福岡女学院大学人文学部現代文化学科

他

<https://hdl.handle.net/2324/16791>

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2005-09-20. 梓書院
バージョン：
権利関係：

お
わ
り
に

「なぜ日本ではいい大人でも漫画を読むのか」。軽蔑と冷笑とともに幾度となくこの問いは発せられ、日本人の精神的未熟さが原因であると日本人自身が嘆くようなことも珍しくなかった。日本の漫画やアニメが世界的に評価されるようになった最近ではさすがにそうした論調は少なくなったが、「なぜ日本ではいい大人でも読むような漫画ができたのか」「漫画のどこが面白いのか」という問いにまだ十分に我々は答えていない。

日本の漫画が単なる「わかりやすい絵解き物語」というような域を遥かに脱し、表現形式として独特の魅力を持ち、内容的な深みを備えた文化として成熟した背景には、日本の文学、絵画、舞台芸術、映像芸術など他の文化の蓄積があった。こうした事情を明らかにする研究が最近少しずつ表われてきているが、せっかくの「輸出超過文化」であるにしては、漫画についての研究はまだまだ立ち遅れていると言わざるを得ない。文化としての発展過程だけでなく、作品研究、技法研究、言語分析、応用方法の研究など、様々な方面からの研究が待たれる。漫画は、自己について語られることを待っている寡黙な巨人のような存在であると言え

よう。

ある土地における文化のあり方は、その土地における様々な他の営為の複合的影響のもとにある。本書に収めた諸論文が述べるように、アジア、ヨーロッパの国々における漫画文化は、日本漫画やアメリカンコミックなどの影響を受けながらも、その国その国の独特の姿を見せている。このことは文化が生まれ育つダイナミズムを改めて感じさせてくれる。漫画という文化が各国でどのように受容され、どのような方向に発展し、どのように根付いていくかを観察することは、その国の文化の伝統と人々の心のあり方を深く知ることにつながるだろう。

漫画研究はまだ始まったばかりであるが、本書に収められた諸論文がこの豊穡な分野へ切り込んでいこうという意欲を持つ人々にとって一つの道しるべとなることを心から祈っている。

2005年7月

執筆者を代表して、

日下 翠